第 55 回日本神経学会学術大会のお知らせ

第55回日本神経学会学術大会大会長 吉良 潤一

開催概要

1. 学術大会会期: 平成26年(2014年)5月21日(水)~24日(土) 「Keep Pioneering:神経内科創設の志の継承と飛躍」をテーマとして、上記日程で開催いたします。 アジア、教育、飛躍をキーワードに、神経内科創設期のパッションを再体験し、明日につなげられるような大会 にしたいと考えております。

2. 学術大会会場:福岡国際会議場・福岡サンパレス・福岡国際センター 〒 812-0032 福岡県福岡市博多区石城町 2-1

- 3. **演題募集期間**:平成 25 年 10 月 21 日 (月)~12 月 20 日 (金)
- 4. 事前参加登録:平成25年12月中旬予定
 - ※事前参加登録はすべてオンラインにより登録を行います.
 - ※日本神経学会第2回専門医育成教育セミナー,第11回生涯教育セミナー「レクチャー」「Hands-on」、 第2回メディカルスタッフ教育セミナー及び各種共催セミナー(ランチョンセミナー、イブニングセミナー、 プレミアムイブニングセミナー)もオンラインによる事前登録制とする予定です。
- 5. 参加費:①事前参加登録費:15,000 円(当日18,000 円)
 - ②メディカルスタッフ:1日1.000円(全日程3.000円)
 - ③学部学生·初期研修医:無料
 - ※「海外からの参加者・国内の外国人留学生」については、登録料を低価格にする方向で現在検討中です。 詳細等は、追ってホームページでご案内いたします。
- 6. **託児所**:会期中, 託児所をご用意いたします. お申込み方法等につきましては, 追ってホームページでご案内いたします.
- 7. **エクスカーション**:会期中エクスカーションを企画しております。お申込み方法等につきましては、追ってホームページでご案内いたします。
- 8. お問い合わせ

【学術大会本部】

九州大学大学院医学研究院神経内科学

〒 812-8582 福岡県福岡市東区馬出 3-1-1

TEL: 092-642-5340 FAX: 092-642-5352

【学術大会運営事務局】

〒 810-0001 福岡県福岡市中央区天神 1-9-17-11F

TEL: 092-716-7116 FAX: 092-716-7143

E-mail: neuro55@congre.co.jp

2014年度「日本神経学会賞 | 応募要項

神経内科分野で大学・病院・診療所等に所属し、研究、教育、ないし実地診療に積極的に関わり、その発展・向上に寄与した方々を顕彰するため、日本神経学会では2002年から学会賞を設けており、毎年学術大会時に表彰が行われています。学会賞には学術研究部門、診療/教育部門の二部門があり、いずれも神経学の発展にとっては極めて重要です。学術研究部門のみならず、診療/教育部門についても積極的な応募をお願いいたします。

1. 賞の対象および対象者:

- (1) 学術研究部門:神経学の学術研究の発展にとくに寄与した学会員, ただし受賞時の年齢が45歳以下であること
- (2) 診療/教育部門:神経内科領域の診療あるいは教育の向上にとくに寄与した学会員, ただし年齢は問いません.
- 2. 提出書類:ご提出いただきました書類については、一切返却できません.
 - 1. 履歴書: A4 サイズ,縦長横書き,12 ポイント.写真添付とともに大学卒業以降の経歴,賞,医籍登録番号,当学会会員番号,専門医の場合は専門医番号を記載してください.団体の場合は代表者について記載し、別紙に協力者の氏名,年齢,性,出身大学名,現在の所属/職位,当学会会員番号,(専門医番号)の一覧を記載してください(協力者は当学会会員である必要はありません).
 - 2. 業績内容: A4 サイズ、縦長横書き、12 ポイント.
 - a. 業績課題名:
 - (1) 学術研究, (2) 診療, (3) 教育, の3分野から1分野を選択してください. 業績内容が一瞥できる簡単な課題名をつけてください.
 - b. 業績事由:

対象となる業績について、いつ頃から、何処で、どのような組織で、何を行ったものかが概略わかるように記載してください。また、研究業績については、その業績の持つ研究分野での意義と今後の期待される発展、社会的貢献についての評価を、診療/教育業績については、その業績の社会的貢献および今後期待される応用への見込みについての評価を加えてください。

- 3. 業績目録: A4 サイズ, 縦長横書き, 12 ポイント. 対象となる業績一覧を「臨床神経学」投稿規定 D) 執筆要項8. 引用文献に準じて記載してください.
- 4. 推薦書(自薦または他薦): A4 サイズ、縦長横書き、12 ポイント、
- 5. 添付資料:研究業績については対象となる研究に直接関係する代表的な論文別刷 10 編以内を, 診療/教育業績については直接の関連資料を, 各々6部ずつ添付してください (コピー可).
- 3. **選考方法**: 選考委員会が選考し、理事会の承認を得ます、選考委員会は代表理事、大会長、前大会長、編集委員長、診療向上委員長をもって構成します。
- 4. 発表方法・内容: 2014 年 5 月の第 55 回日本神経学会学術大会において表彰し、賞状および楯を贈呈します。表彰時の年度(西暦)の賞と呼ぶものとします。
- 5. 受賞論文:日本神経学会英文誌「Neurology and Clinical Neuroscience」へ受賞業績をテーマとした論文をご投稿いただきます.
- 6. 応募書類送付先:
 - 一般社団法人 日本神経学会
 - 〒 113-0034 東京都文京区湯島 2-31-21 一丸ビル
- 7. 応募期間: 2013年12月20日(金曜日)必着

一般社団法人 日本神経学会 代表理事 水澤 英洋 第 55 回日本神経学会学術大会 大会長 吉良 潤一

2014年度「楢林賞」応募要項

日本神経学会は故楢林博太郎先生のご業績を称えて、錐体外路系の基礎研究分野あるいはそれに関連する疾患についての優れた研究に対し、毎年1名を選んで楢林賞を贈ります。国籍、年令、身分、資格、自薦・他薦は問いません。

1. 賞の対象および対象者:

錐体外路系の基礎研究分野あるいはそれに関連する疾患についての優れた研究. 国籍, 年齢, 身分, 資格, 自薦・ 他 直は問いません

- 2. 提出書類:ご提出いただきました書類については、一切返却できません.
 - 1. 履歴書: A4 サイズ, 縦長横書き, 12 ポイント. 写真添付とともに大学卒業以降の経歴, 受賞歴を記載してく ださい
 - 2. 業績内容: A4 サイズ 2 枚以内, 縦長横書き, 12 ポイント.
 - a. 業績課題名:業績内容が一瞥できる簡単な課題名をつけてください.
 - b. 業績事由:対象となる業績について、いつ頃から、何処で、どのような組織で、何を行ったものかが概略 わかるように記載してください。また、その業績の持つ研究分野での意義と今後の期待される発展、社会 的貢献、国際的貢献についての評価を加えてください。
 - 3. 業績目録: A4 サイズ, 縦長横書き, 12 ポイント. 対象となる業績一覧を「臨床神経学」投稿規定 D) 執筆要項 8. 引用文献に準じて記載してください.
 - 4. 推薦書(他薦の場合のみ必要): A4 サイズ, 縦長横書き, 12 ポイント.
 - 5. 添付資料:対象となる業績に直接関係する代表的な論文別刷10編以内または資料を、各々6部ずつ添付してください(コピー可)
- 3. **選考方法**: 選考委員会が選考し、理事会の承認を得ます。選考委員会は代表理事、大会長、前大会長、編集委員長、診療向上委員長をもって構成します。
- 4. **発表方法・内容**: 2014 年 5 月の第 55 回日本神経学会学術大会において表彰し、賞状・楯および副賞を贈呈します。 表彰時の年度(西暦)の賞と呼ぶものとします。
- 5. 受賞論文:日本神経学会英文誌「Neurology and Clinical Neuroscience」へ受賞業績をテーマとした論文をご投稿いただきます.
- 6. 応募書類送付先:
 - 一般社団法人 日本神経学会
 - 〒 113-0034 東京都文京区湯島 2-31-21 一丸ビル
- 7. 応募期間: 2013年12月20日(金曜日)必着

一般社団法人 日本神経学会 代表理事 水澤 英洋 第55回日本神経学会学術大会 大会長 吉良 潤一

第39同日本神経学会専門医試験の講評

第39回日本神経学会専門医試験における筆記試験・面接試験では175名が合格し、新規受験者の合格率は77%でした。 筆記試験では必修、一般、症例の3領域に分けてそれぞれ100題が出題され、必修問題にはより高い正答率が求められました。また、症例サマリー10例についても査読が実施され、不適切と判定されたサマリーは修正と再提出をして頂きました。さらに責任指導医による研修内容の評価が必要となっており、これらは面接試験に反映されています。

1. 筆記試験

全体として、症候学に関連する問題が出来ていない、との指摘がありました.

1) 必修問題について

必修問題の正答率は80%を期待して出題しましたが、実際の平均の正答率は65%でした。特に正答率が低かった設問は以下の通りです。

頸椎高位レベルと支配上肢筋との関係, 脳波の正常波形, 特徴的な脳波異常を示す疾患, 加齢に伴う石灰化部位, 核内構造物, 遺伝子診断における被検者への説明, 筋線維のタイプと染色, 筋疾患と阻血下前腕運動負荷試験, 心電図 R-R 間隔, 代謝性疾患, CIDP の臨床的特徴, 腎機能障害時の薬剤選択, 高安動脈炎, 脳梗塞の危険因子, 脳卒中と福祉制度などに関する問題の正答率が低い結果でした.

- ・脊椎脊髄疾患では、どの高位が障害されたらどういう症候が出現するかを知っている必要があります。特に、日常診療で頻度の高い頸椎症の場合に重要です
- ・実地診療で読まなければならない脳波検査についての理解も不足がみられます
- ・中枢神経病理所見や筋病理を勉強する機会が少ないことが懸念されます
- ・遺伝子診断に関する説明は今後ますます重要になって来ると思われ、十分な理解をしておく必要があります
- ・臨床で用いられる自律神経検査についても理解が不足しています
- ・脳卒中と福祉制度は、日常診療でも必須のものであるにもかかわらず知識が不足しているようです これらは神経内科の臨床において理解しておくべき基本的な事項ですので、ぜひ理解を深めておいて頂きたいと 思います。

2) 一般問題について

一般問題の正答率は49%でした。特に正答率が低かった設問は以下の通りです。

脊髄病変の原因疾患,多発性硬化症の発症リスク,梅毒,トキソプラズマ症,破傷風,脳炎の病態,抗てんかん薬の禁忌事項,脳波の読解,末梢神経組織像,末梢神経伝導速度の読解,筋電図所見,病理肉眼像や正常構造,横紋筋融解症,画像と症候,失神,孤発性神経疾患の遺伝的リスク,認知症治療薬の半減期や代謝経路,カタトニア,球脊髄性筋萎縮症,シナプス可塑性,ポルフィリン症,穿通枝梗塞や分水嶺梗塞の症候,アミロイド血管症などに関する問題の正答率が低い傾向がみられました。

- ・画像における正確な部位診断ができておらず、また、症候と病巣との対比が必ずしもできていない傾向が伺われます
- ・梅毒、ハンセン病、トキソプラズマ症、破傷風などの診断・治療についての知識が不足しているように見受けられました
- ・日常診療において Common な症候である失神も理解されていないようです

3) 症例問題について

症例問題の正答率は64%でした。特に正答率が低かった設問は以下の通りです。

脊髄 MRI 所見の読解, 嗜銀顆粒性認知症, 弾性線維性仮性黄色腫, 脳炎, 一酸化炭素中毒, 手根管症候群, 有棘赤血球を伴う舞踏病, 筋強直性ジストロフィー, Lambert-Eaton 筋無力症症候群, 末梢神経組織標本の読解などの設間が低い正答率でした.

・繰り返しになりますが、画像における正確な部位診断ができていない、症候と病巣との対比ができていない傾向 が伺われました

2. 面接試験について

面接試験では、神経学的診察法の実技に関する試験と、提出された症例サマリーに基づいて神経学の基本的知識に 関する試問を実施しています。試験実施後、以下のような意見がありました。

・基本的な診察ができず、神経診察が十分にできない受験生がみられました

- ・対座法で視野を適切に診れない受験生もみられ、日常の診療においてそれらの診察手技を行っていないと判断される受験生がみられました
- ・神経学会が作成した DVD を見ているだけではカバーできないような診察法についての理解が不足しているとの 指摘もありました
- ・痙縮, 手根管症候群, 平衡機能, 固定姿勢保持困難 (asterixis) などを診れない, 偽性アテトーシス (pseudoathetosis) を理解していない受験生も見受けられました
- ・丁寧に神経診察所見を取る習慣が築かれていない、アキレス腱反射の出にくい場合の診方ができていない、病態 を考えながら所見を取っていくことができていない、といった指摘がありました
- ・所属施設により経験症例や知識に偏りがあると判断される受験生もみられ、専門医としては神経内科全般に渡る 研修が実施しておいて頂きたいと思います
- ・筋生検、神経生検、針筋電図などの経験例数が多数あると記載してあるにもかかわらず、本当に記載されている 経験症例数を経験しているのか疑わしい受験生もみられました
- ・外来診察を経験していると容易に対応できると思われるような、問診に関することが不足している傾向がみられました。例えば、機能性疾患の診断では問診が重要ですが、問診が取れないままにすぐに検査を考える傾向がみられるとの指摘がありました

今回の試験の総括は以上の通りです。次年度以降の受験生の皆さんには、神経解剖学・生理学・薬理学・病理学などの基本的理解の上に、症候学や画像診断学を学んでいただくように希望します。また、神経診断は問診から始まる点も理解して研修に務めて頂きたいと思います。指導医の先生方には、専門研修医に対して上記の点も踏まえて指導を頂きますよう。宜しくお願い致します。

平成 25 年 7 月 25 日 日本神経学会専門医認定委員会 (文責 認定委員長 中島 健二)

---《会 告》-----

平成 25 年度(第39回)日本神経学会専門医試験のご報告

日本神経学会 代表理事 水澤 英洋 同 専門医認定委員会 委員長 中島 健二

平成 25 年度試験は, 6 月 15 日に一次試験, 7 月 13 日に二次試験を実施し, 最終的に以下の 175 名を日本神経学会専門医試験の合格者として認定致しました.

本試験の実施にあたり、試験問題作成、試験監督、症例サマリーの査読および面接試験にご協力をいただいた方々のお名前を以下に掲げ、御礼に代えさせていただきます。

平成 25 年度日本神経学会専門医試験合格者:

1 /5	~ 20	7/1	. 11 '+	111/11 1 7 771 16	ユ HンV ウノ	\	1 1 .								
相	澤	哲	史	緒	方	利	安	作	田	健	_	竹	内	朗	子
青	Щ	淳	夫	奥	田	真	也	櫻	井	秀	幸	竹	島	慎	_
赤	木	明	生	奥	村	幸	祐	佐	藤	達	哉	竹	丸		誠
芥	Ш	宜	子	小	野澤	里在	女子	佐	藤	豊	大	武	Щ	博	文
浅	利	博	基	加	藤	可奏	条子	佐	藤	宏	匡	多	田	昌	史
麻	生	泰	弘	加	藤	茉	里	寒	Ш		真	<u>\f\</u>	花	久	嗣
阿	部	圭	輔	角	谷	真	人	篠	田	紘	司	田	中		愛
荒	木	邦	彦	JII	畑	和	也	柴	田	洋	子	田	中	瑛》	欠郎
安	藤	真	矢	河	村	美E	5子	清	水	聰-	一郎	玉	木	慶	子
飯	田		円	河	村	保	臣	下	邨	華	菜	穾	田	健	_
池	田	謙	輔	JII	本	裕	子	白	井	慎	_	柘	植	彩	子
池	田	祥	恵	北	澤		悠	白	井	優	香	辻		有利	育子
池	田	昇	平	北	原	真綿	己子	白	石	翔	_	手	塚	敏	之
石	橋	正	人	北	村		美子	進	藤	誠	悟	鳥名	多部	真	史
石	村	洋	平	木	下	朋	実	菅		智	宏	内	藤		絢
伊	藤		愛	或	井		少子	須	貝	章	弘	直	井	為	任
伊	藤		岳	久	保	あり)香	菅	原	\equiv	和	中	JII	知	憲
伊	藤		傑	黒	木	卓	馬	杉	Щ	淳出	乙古	中	JII	道	隆
伊	藤	隆	洋	小	泉		崇	鈴	木	健大	に郎	中	島	明日]香
伊	藤	陽	子	小	出	達	也	鈴	木	由着	子	中	島	敦	史
井	元	万彩		髙		真	守	清	家	尚	彦	中	嶋		匡
岩	井	雄	太	小	島	_	步	瀬	Ш	茉	莉	仲	野		達
上	中		健	小	島	美	紀	関		健	志	中	原	圭	_
上	野	達	哉	後	藤	和	也	関	根	有	美	中	村	匡	宏
内	田		司	小	林	千	夏	高	田	真禾		能	重		歩
内	田	智	彦	小	林	洋	介	高	野	里	菜	羽	賀	理	恵
内	野	彰	子	権		泰	史	高	橋	美	江	橋	本	哲	也
榎	本	崇	_	齋	藤		ゆみ	高	宮	資	宜	波多	多野	敬	子
遠	藤	雅	直	齋	藤	朋	美	高	Щ	洋	平	林		由才	
王	子		悠	阪	田		支美	滝	沢	まと		原			誠
大	崎	裕	亮	坂	本	光	弘	宅	間	裕	子	東		美	和

桶 泰 雄 氷 室 圭 姫 野 降 洋 平 井 健 出 さとみ 廣 深 谷 純 子 藤 井 大 樹 藤 並 潤 本 宏 明 藤 古 Ш 彰 吾 子 坊 野 恵 星 野 岳 郎 細 Ш 隆 史

實 子 堀 真 堀 士 前 \mathbb{H} 仁 枡 \mathbb{H} 大 生 真壽田 充 代 松 尾 皇 松 崎 丞 松 本 雄 志 眞 野 篤 間 野 達 雄 儘 田 直 美

さつき

史

晃

野 晃 弘 向 藤 真 己 武 里英子 本 尚 Ш ŋ え 本 聡 生 森 麗 森 森 井 芙貴子 有里恵 森 木 木 洋 八 輔 司 安 出 卓 野 矢 怜 内 藪 健 佳 Ш 剛

 \mathbb{H} 晋一郎 Ш 手 Ш 康 司 湯 谷 佐知子 関 恵 美 横 耕太郎 吉 尚 吉 崎 崇 仁 明 吉 툰 恒 孝 米 山 典 岩佐谷 保 仁 渡 邊 彰 弘 邊 渡 耕 介 渡 辺 武 士

以上 175 名 (50音順・敬称略)

平成 25 年度日本神経学会専門医試験にご協力をいただいた方々:

三津間

宅

 \equiv

青 木 正 志 朝比奈 正 人 呵 部 康 荒 井 元 美 木 夫 荒 信 有 村 公 良 藤 朗 安 哲 安 東 由喜雄 五十嵐 修 之 井 \Box 保 夫 池 \mathbf{H} 昭 池 \mathbb{H} 修 池 \mathbf{H} 佳 生 厚 石 Ш 石 藏 礼 市 Ш 博 雄 東 文 伊 秀 犬 塚 貴 岩 崎 泰 雄 上 坂 義 和 上 野 聡 植 村 健 吾 上 Ш 秀 嗣 魚 住 武 則 宇 Ш 義 __

内

内

原

Ш

俊

真一郎

記

大 島 淳 野 大 司 大 場 洋 尚 尚 省 本 尚 浩-一郎 小 宅 睦 郎 茂 之 織 智 海 \mathbb{H} 賢 柿 \mathbb{H} 明 美 梶 龍 兒 加世田 ゆみ子 片 Ш 泰 朗 片 山 隆 行 藤 加 丈 夫 \equiv 金 藤 大 亀 井 聡 亀 Ш 隆 苅 \mathbb{H} 典 生 \prod 合 圭 成 Ш 井 充 河 村 満 神 \mathbb{H} 隆 岸 田 修 北 Ш 夫 木 村 美 和 吉 良 潤

金

野

竜

太

下 博 文 \mathbb{H} 進 楠 熊 本 俊 秀 栗 \mathbf{H} 正 門 栗 Ш 長 栗 Ш 勝 桑 原 聡 池 小 春 樹 幸 原 伸 夫 郡 山 達 男 小松本 悟 古 和 久 典 沂 藤 IF. 樹 井 坂 利 行 佐々木 秀 直 澤 本 伸 克 椎 尾 康 塩 屋 敬 清 水 貴 子 下 濱 俊 東海林 幹 夫 菅 信 菅 原 正 伯 杉 浦 嘉 泰 杉 江 秀 夫 杉 山 博 鈴 木 則 宏 鈴 木 W 8 \mathbb{H} 砂 芳 秀 袁 生 雅 弘 祖父江 元 高 木 誠 髙 嶋 博 高 橋 牧 郎 高 橋 正 紀 高 橋 良 輔 瀧 濹 俊 也 瀧 山 嘉 久 竹 島 多賀夫 武 田 景 敏 武 田 克 彦 田 中 惠 子 \mathbb{H} 中 耕太郎 田 中 章 景 田 中 真 中 亮 太 \mathbb{H} 棚 橋 紀 夫 谷 脇 考 恭 玉 尚 晃 千 葉 厚 郎 千 葉 進 辻 省 次 坪 井 義 夫

寺

 \mathbb{H}

志

寺	Щ	靖	夫	野	JII		茂	松	井	尚	子	Щ	尾	房	枝
道	勇		学	野	村	恭	_	松	井		真	Щ	門	穂	高
登っ	$\vdash \Box$		進	野	村	哲	史	松	尾	秀	徳	Щ	\Box	修	平
徳	丸	四	耶	野	元	正	弘	松	原	兀	郎	Щ	崎	峰	雄
戸	田	達	史	橋	本	洋-	一郎	松	本	昌	泰	Щ	下	博	史
飛	松	省	三	長名	川谷	泰	弘	\equiv	木	健	司	Щ	田	正	仁
富	本	秀	和	服	部	信	孝	水	野	裕	司	Щ	本	達	也
豊	島		至	羽	生	春	夫	南		正	之	Щ	本	光	利
豊	田	_	則	濱	田	潤	_	宮	嶋	裕	明	Щ	脇	健	盛
長	尾	毅	彦	林		由走	己子	宮	田		元	吉	井	文	均
中	Ш	正	法	原		英	夫	宮	本	智	之	吉	Ш	弘	明
中	島	健	$\stackrel{-}{\rightharpoonup}$	平	田	幸		武	藤	多清	訓	米	田	行	宏
中	嶋	秀	人	平	野	照	之	村	上	秀	友	米	\mathbb{H}		誠
長	田		乾	福	井	俊	哉	村	\mathbb{H}	美	穂	依	藤	史	郎
中	野	今	治	藤	田	信	也	村	松	和	浩	若	林	孝	_
中	野		智	藤	原	_	男	持	尾	聰-	一郎	渡	辺	宏	久
中	薮	幹	也	藤	本	健		望	月	秀	樹	渡	邊	浩	之
西	澤	正	豊	古	井	英	介	望	月	仁	志	渡	邉	嘉	之
西	Ш	和	利	古	Ш	芳	明	本	村	政	勝				
音	成	龍	司	堀	内	正	浩	森		悦	朗				

以上 186 名 (50 音順·敬称略)

来年の平成 26 年度 (第 40 回) 日本神経学会専門医試験は,第一次試験を 6 月 14 日 (土) に (会場未定),第二次試験を 7 月 12 日 (土) に日本都市センター会館にて実施する予定です。 面接試験などに改めてご協力を宜しくお願い致します。

日本神経学会 議事録

平成 25 年度第 2 回理事会議事録要旨

日 時: 平成 25 年 5 月 29 日 (水) 10:00 ~ 12:00

場 所:東京国際フォーラム ガラス棟 会議室 G402

出席:阿部康二,宇川義一,内山真一郎,梶龍兒,亀井聡,吉良潤一,楠進,佐々木秀直,鈴木則宏,祖父江元,

高橋良輔, 辻 省次, 中島健二, 中野今治, 西澤正豊, 水澤英洋, 峰松一夫, 山田正仁, 山本光利

欠席理事:服部信孝 監 事:葛原茂樹 欠席監事:清水輝夫

陪 席:アスト税理士法人 小飯田浩伸

小村司法書士事務所 中村拓雄

(日本神経学会から)

選挙管理委員会委員長 内野 誠

ガイドライン統括委員会委員長 辻 貞俊

第54回学術大会運営事務局 横田隆徳, 石川欽也

第 55 回学術大会運営事務局 大八木保政

(事務局から) 寺尾安生 総務幹事,池田義春 事務長,寺田憲子,西川祐子

(敬称略)

議題

- (1) 平成24年度事業報告について
- (2) 平成24年度決算報告について
- (3) 監事監査報告について
- (4) 平成 25 年度事業報告 (案) について
- (5) 平成25年度収支予算(案) について
- (6) 役員等選出について
 - ① 理事選出について
 - ② 2014年度選出理事数について
 - ③ 監事選出について
 - ④ 各種委員会委員長および委員会構成について
- (7) 名誉会員推薦について
- (8) 一般社団法人日本神経学会利益相反(COI)運用に関する指針の改正について
- (9) 日本神経学会学術大会時の演題の倫理面について
- (10) 一般社団法人日本神経学会育児・介護に関する規程改正について
- (11) 一般社団法人日本神経学会認定更新に関する規程改正について
- (12) 一般社団法人日本神経学会指導医の認定および認定更新手続きに関する規程(案)について
- (13) 一般社団法人日本神経学会各種委員会設置に関する規程改正について
- (14) 専門医制度について
- (15) 災害支援ネットワークの設置について
- (16) 各種委員会報告について
 - 編集委員会
 - ② 専門医認定委員会 · 認定更新小委員会
 - ③ 施設認定委員会
 - ④ 診療向上委員会
 - ⑤ 教育委員会
 - ⑥ 統括ガイドライン委員会
 - ⑦ 国際対応委員会·WCN 招致委員会
 - ⑧ 英文誌編集委員会

- (17) 一般社団法人医療安全全国共同行動への入会について
- (18) 第55回学術大会長報告について
- (19) 第56回学術大会長報告について
- (20) その他
 - (1) 事務局事務室模様替えについて
 - ② 次回理事会について

(別紙 配布資料)

- 1 各種委員会委員長および委員構成に関する資料
- 2 一般社団法人日本神経学会 利益相反 (COI) に関する運用指針改正関係資料
- 3 日本神経学会学術大会時の演題の倫理面について
- 4 一般社団法人日本神経学会職員の育児・介護休業に関する規程改正関係資料
- 5 一般社団法人日本神経学会 認定更新に関する規程改正関係資料
- 6 専門医制度検討関係資料
- 7 日本神経学会専門医認定委員会報告
- 8 専門医認定更新について
- 9 「一般社団法人医療安全全国共同行動」設立のご報告とお願い
- 10 平成25年度第1回理事会議事要旨(案)

○ 議事に入る前に

1 出席状況の確認

水澤代表理事から、出席状況(理事は出席 19 名、欠席 1 名(服部理事)、監事は出席 1 名、欠席 1 名(清水監事)が報告され、定足数を満たしている旨説明があった。

2 水澤代表理事から陪席者について紹介があった.

(外部から)

アスト税理士法人 小飯田浩伸

小村司法書士事務所 中村拓雄

(内部から)

選挙管理委員会委員長 内野 誠

ガイドライン統括委員会委員長 辻 貞俊

第 54 回学術大会運営事務局 横田隆徳 石川欽也

第55回学術大会運営事務局 大八木保政

(事務局) 寺尾安生総務幹事 池田事務長 寺田憲子 西川祐子

3 資料の確認

水澤代表理事から、配布資料について説明があり、平成25年度第1回理事会議事要旨(案)(別冊資料10)について 意見がある場合、申し出ていただくよう要請があった。

○議 事

(1) 会員状況報告

水澤代表理事から、平成25年3月31日現在の会員状況について社員総会で報告する旨、説明があった.

(2) ガイドライン統括委員会報告(資料 P13)

ガイドライン統括委員会委員長の辻(貞)名誉会員が途中退席予定のため、最初に報告された。ガイドラインの作成、出版状況および評価の実施状況等について報告があった。現在2011年から作成に着手したガイドラインが7つあるが、一昨日3つのガイドラインが発行された。2013年より単純ヘルペスウイルス脳炎診療ガイドライン,ジストニア診療ガイドラインは神経学会の主導で作成中であり、脳卒中診療ガイドラインも脳卒中学会主導で進行中である。今後ガイドラインの英文化も目指していくとのことであった。今学術大会の6月1日にガイドラインについてのセッション(「女性(妊娠)とてんかん治療」、「重症筋無力症の診療ガイドライン作成にあたって」)があることも報告された。

(3) 平成 24 年度事業報告について (資料 P11)

水澤代表理事から、資料に基づき平成24年度に実施した事業について報告があった。第53回日本神経学会学術大会・地方会を開催したこと、英文機関誌の発行、診療ガイドラインの作成、日本神経学会賞および楢林賞などの研究奨励、専門医試験の実施・専門医認定更新、会員を対象とした教育啓蒙活動として生涯教育講演会、卒後教育事業、卒前・初期臨床研修教育事業、教育コンテンツ配信事業、メディカルスタッフ教育事業を行ったこと、診療報酬改定への取り組み、新薬承認事業の促進等に関する要望活動を継続していること、国際協力(WCN招致活動、東アジア神経学フォーラム関連事業)、災害支援ネットワーク事業、理事選挙、代議員選出などについて説明があった。

(4) 平成 24 年度決算報告について (資料 P15)

財務委員会委員長の辻(省)理事から、資料に基づき平成24年度決算について説明があり、承認された。平成24年度における収支差は1億2千万円余となっているが、これには任意団体日本神経学会の解散に伴う一般社団法人日本神経学会への寄付も含まれており、その中にはこれまでに現法人が借り入れた借金の部分もあるので、実質上の収入は4000万円程度となる。その結果、繰越金は全体で2億8千万円程度となり、財務上は災害などで一回学術大会が中止になっても乗り切れるだけの体力ができてきているといえる。決算は全体的に堅調であるが、今後消費税アップなども予想され、英文機関誌の発行や教育活動の充実などを考えると財務的には楽観できる状況ではなく、今後も収入増の努力が必要と思われる。特に学術大会では頑張って余剰金を増やしていただきたいとの要望があった。

収入面の内訳は、会費未納会員の退会処理などがあったため会費納入率が高く(97%)年会費収入が良好であること、認定医更新料については前年度に更新した人が多かったため今年度は収入減となる見込みであること、ガイドラインの印税収入が好調なこと、重症神経難病患者災害情報ネットワーク事業費補助金は雑収入に含めて計上されている。認定医更新については前年度に更新した会員が多かったため予算額より収入が少なかったこと、などが報告された、支出面の内訳については、臨床神経学刊行事業に関しては印刷会社の変更により、またガイドライン作成事業でも経費圧縮の努力があり、管理費についても節減がなされたため、全体として堅調であるとのことである。他方、WCNの招致活動が本格化するに伴い、国際協力事業の予算において補正があったことも説明された。また学術大会関係では、第53回学術大会の剰余金が約1700万円であったことが報告された。

(5) 監事監査報告について

アスト税理士法人の小飯田氏からの決算報告、葛原監事からの監査報告については社員総会でなされることになった。

(6) 平成 25 年度事業計画 (案) について (資料 P31)

水澤代表理事から、資料に基づき平成25年度の事業計画案について説明があり、承認された。第54回日本神経学会学術大会を開催すること、第58回学術大会大会長を選出すること、地方会の開催、臨床神経学・英文機関誌の発行、CIDP/MMN・重症筋無力症、ギランバレー症候群/フィッシャー症候群・細菌性髄膜炎・筋ジストロフィー・頭痛・ALSの7疾患についてガイドラインの作成を行うこと、2009、2010、2011年に発行した5つのガイドラインについて、評価を行うとともに追補版を作成し学会ホームページで公開すること、今回の学術大会後市民公開講座を開催すること、広報活動、神経内科フォーラムの設置、神経内科学講座充実への取り組み、神経学会賞および楢林賞を授与すること、第39回専門医試験、第19回専門医認定更新を行うこと、施設認定更新、指導医更新を行うこと、昨年度にひきつづいて専門医制度の改革について検討をおこなうこと、会員を対象とした教育啓蒙活動として生涯教育講演会、専門医育成教育事業、卒前・初期研修教育事業、教育コンテンツ配信事業、メディカルスタッフ教育事業、教育事業に貢献のあった先生に excellent teacher 表彰を実施すること、診療向上のための活動として診療報酬改定への取り組みを行うこと、新薬承認事業の促進等に関する要望活動を行うこと、WCN2017の誘致、災害支援ネットワーク事業、一般法人としての運営では理事選挙、総会選出代議員の選任を行うことが報告された、なおWCN 招致については9月22日にウイーンで投票が行われるので、この3か月半が山場になるとのことであった。

(8) 平成 25 年度収支予算 (案) について (資料 P35)

財務委員会委員長の辻(省)理事から、資料に基づき平成25年度収支予算案について説明があった。支出は昨年度より圧縮することを目指したいとの方針である。収入面では、年会費は7750人分の支払いを見込んでおり、指導医更新料については今年初めての指導医更新者が2100名いる予定で収入の増加を見込んでいること、印税収入はガイドラインの新規出版分を見込むとともに、印税率もアップする予定なので増加の見込みである。支出面では、臨床神経学は53巻1号から印刷会社を変更し予算が減額になっているが、英文機関誌については前年度は途中からの発行であったので3号分しか出していないが、今年度隔月でfullに発行を継続していくため予算が増加となること。広報活動では市民向け広報の

手段として動画作成のための予算が増えていること、WCN2017 開催のための運営費を毎年 500 万円ずつ積み立てる予定であること、災害支援ネットワークシステムへの参加機関の募集・登録や災害時対応の模擬訓練予算として 240 万円あまりを計上したことなどが報告された、管理運営費の節減は引き続き努力していく、学術大会関係では、54 回学術大会の剰余金 1700 万円程度が予備費として計上されている。参加者 5700 名程度が予想され収入の増加が見込まれるが、セミナー共催費は共催数が 52 件と過去最大であるがやや広告が少なめである。また機材搬入などの関係で、大会期間が一日増えることも支出の増加に影響している。

国際的動向としてもスポンサー付きセミナーは少なくなっており、今後消費税も上がると予想されること、日薬連の寄付も減額される可能性があると思われることから、財務体質の強化が必要となる。日薬連からの寄付は1400万円であり固定している一方で、日薬連に所属していない会社から寄付をもらうには個別交渉が必要になりこれまで実績はあまりないこと、ランチョンセミナーなどで寄付を募るのにも上限があること、企業倫理としてよくないという考え方もあり、今後はランチョンセミナーなどに頼らず収益を上げる方法も考える必要がある、そのために財務小委員会の活躍が期待される。

財務体質の強化対策としては、会費の値上げは現時点では考えておらず、今のところは会場費の安い地方の学術大会でより収益をあげていただきたい。収入面では教育セミナーの参加者数を増やすため、第55回から専門医教育セミナーの他は大会4日目としたこと、Webcastで収入を増やしていくこと、節約面では学術大会の運営を事務局で担い、お金の面だけでなくノウハウも蓄積、マニュアル化していく努力を続けている。学術大会の教育プログラム全体で収入を上げる方法を考えることも重要で、専門医のトレーニングが重要であることを認識してもらい、大学なり病院なりで参加費を出してもらえるようにすることも大切である。あまり大会の余剰金が多すぎると、日薬連からの寄付がなくなるのではないかと危惧する意見もあった。これに対しては、現在教育セミナーなどは予算が別枠になっているが、学術大会会計に一緒に含めて黒字を少なくする対策も考えられるとのことであった。将来的には神経内科フォーラムを発展させ神経内科協会のようなものをつくっていくことも必要である。学術大会運営委員会、学術委員会、学術大会担当教室、学会事務局、PCOなどの役割分担をどのようにするか、今後はっきりさせるべきであるとの意見も出た。

最後に水澤代表理事からは、神経学会学術大会の規模が大きくなり、スポンサー付きセミナーなどに頼る方法ではそれ に見合うだけの収入を用意するのが大変になっている。今後は、単なる規模拡大ではなく、規模に見合った収益を上げ運 営できるように、内容すなわち運営方法を改善していく努力も必要であるという説明があった。

(9) 役員等選出について

① 2014年度選出理事数について(資料 P43)

水澤代表理事から,資料に基づき,現理事が第55回学術大会終了後に任期満了となるため,今年度に次期理事選挙を行う必要があり,その選出数を社員総会で決定してもらう必要があるので,前回と同じく20名で提案したい旨説明があり,承認された.

② 理事選出について (資料 P45)

内野選挙管理委員会委員長から、資料に基づき、中野今治理事がこの学術大会終了後の定年により退任することになるので、役員選出細則第20条に基づき後任として前回選挙で次点であった吉井文均代議員を理事として社員総会に提案したい旨報告があり、承認された。任期は残任期間の1年間となる。

③ 監事選出について (資料 P45)

水澤代表理事から、清水輝夫監事が第54回学術大会終了後に1期目の任期(2年間)が満了となるため、再任で社員総会に提案したい旨説明があり、承認された.

④ 2013 年度代議員選挙結果について

水澤代表理事から、2013 年度代議員選挙結果について資料 P49-53 の当選者一覧のようになったことが報告された. すでに理事会報告済みであり、社員総会で報告されることとなった.

⑤ 総会選出代議員の選出について

4名の基礎系教授、および1名の精神神経科教授が選出された。前回の理事会で承認済みであり、社員総会で提案・承認を受けることになった。

⑥ 第58回学術大会長選出について

第58回日本神経学会学術大会大会長には、福島県立医科大学医学部神経内科の宇川義一教授が選出された。前回の理事会で承認済みであり、社員総会で報告されることとなった。

⑦ 各種委員会委員長および委員構成について(別冊資料 1) 水澤代表理事から,資料に基づきこの5月で任期が終了する委員長の後任候補者および委員候補者について説明があり, 承認された.

- (イ) 水澤代表理事より下記の委員長交代について説明があった.
 - ・編集委員会(鈴木則宏委員長新任および委員交代)
 - · 倫理 · 審查委員会 (山田正仁委員長新任)
 - ・ガイドライン統括委員会(祖父江元委員長)
 - ・ガイドライン評価委員会(辻貞俊委員長)
- (ロ) 新設委員会の委員長は下記の通りである.
 - ·第55回学術大会年次学術委員会(吉良潤一委員長)
 - · 専門医制度検討委員会(祖父江元委員長)
 - ・単純ヘルペスウイルス診療ガイドライン作成委員会 (亀井聡委員長)
 - ・ジストニア診療ガイドライン作成委員会 (梶龍兒委員長)

第55回大会学術大会委員案については、二年を超えて同じ委員を選ばない、交代ないし他領域に移すという運営委員会での原則に基づいて選ばれた。今回、教育・女性・キャリアー領域、海外部会、九州部会が設置され、国際化と地域性の両方を重視している。倫理審査委員会については、継続性を考え、佐古田先生に委員を続けていただくことになった。なお資料の、「単純ヘルペスウイルス脳炎治療ガイドライン作成委員会」「ジストニア治療ガイドライン作成委員会」は、「単純ヘルペスウイルス脳炎<u>診療</u>ガイドライン作成委員会」「ジストニア<u>診療</u>ガイドライン作成委員会」の誤りであり、訂正がなされた。

(10) 名誉会員推薦について (資料 P59)

水澤代表理事から、資料に基づき名誉会員推薦基準を説明し、基準(①年齢が65歳以上であること、②理事の経験、 ③常任委員会委員長1期以上の経験)に該当する糸山泰人、中野今治、福永秀敏各氏を名誉会員に推薦したい旨提案があり、審議の結果承認された。

(11) 日本神経学会賞および楢林賞受賞者について

2013 年度日本神経学会賞には、現名古屋大学環境医学研究所病態神経科学分野教授の山中宏二教授が、楢林賞には、福島県立医科大学医学部神経内科の宇川義一教授が選ばれたことが報告された。既に理事会承認済みであり、社員総会にて報告されることになった。5月30日に授賞式が行われる。

(12) Excellent Teacher 表彰について

Excellent Teacher 表彰について表彰対象者は生涯教育セミナーおよび専門医育成セミナー等の講師(実技講師を含む)を 5 回以上行った 19 名の先生が選任された。表彰式は 5 月 30 日の社員総会で行われるが、これまで 13 回と講師の回数が最大の森悦郎教授に挨拶していただくことになった。既に理事会承認済みであり、社員総会にて報告されることになった。

(13) 一般社団法人日本神経学会利益相反 (COI) 運用に関する指針の改正について (別冊資料 2)

倫理・審査委員会副委員長の山田理事から、平成25年1月および4月の理事会での審議結果を踏まえた利益相反(COI) 運用に関する指針の改正案について説明があった。平成23年5月の社員総会で日本神経学会利益相反(COI)に関する 運用指針が承認され、2年間を試行期間としてきたが、今回本格運用に向けて運用指針の改正が必要であるとのことであ る。改正案では、「運用指針」の名称を「規程」に変更した。講演会市民公開講座等での自己申告をきめた第3条では、 学会が主催する各術大会等については、自己申告書を提出することになり、その提出先・方法について規定された。一方、 地方会支部が主催する地方会などについては、事務処理の効率化がまだなされていないことにより、当分の間 COI 自己 申告書の提出は必要としないことになった。事務手続きがオンライン化されるようになれば、提出できるようになると思 われる。その他、役員等により自己申告、英文機関紙投稿者の自己申告、COI 自己申告書の保存年限、不服申し立て、規 程の改正、COI 自己申告様式の修正などの条項についても説明があり、承認された。

降圧薬ディオバンに関わる臨床研究の不正疑惑の問題で高久日本医学会会長の記者会見があり、今後 COI を厳しくするとの報道がなされているが、神経学会はこの問題に対してどのような準備をしているか、という質問がなされた。これについては、自己申告に偽りがあった場合、理事会を経て申告者に処分がなされることになる、との回答があった。今後市販後臨床試験のあり方についても、考えていく必要があるとの意見があった。

(14) 日本神経学会学術大会時の演題の倫理面について (別冊資料 3)

倫理・審査委員会副委員長の山田理事から、資料に基づき、学術大会時の演題発表の際の倫理面の対応についての提案と、倫理・審査委員会で審議を行った状況について報告があった。どのような研究に倫理申請が必要となるかについては、

ヒトを対象とした介入研究(患者を対象に薬剤を用いる臨床研究など),ヒト遺伝子解析研究,ヒト幹細胞を用いる研究では倫理審査を受け承認を得ていることが必要であること,所属施設に倫理審査委員会が設置されていない場合には、地域の医師会や大学等の大規模施設の倫理審査委員会で審査を受けることが可能なこと,学術大会への演題提出にあたっては、倫理審査等を必要とする研究の場合、当該委員会の承認を得て研究が行われたことを申告すること,研究をやる前に審査・承認を受けるべきであること,などを学会 HP に掲載し、会員に知らせる予定である。臨床研究の内容が非介入試験の場合も必要か、という質問があり、後ろ向きの研究でも倫理申請が必要で、臨床神経学誌の記載に従ってほしいとのことであった。臨床神経学誌記載の文言も確認が必要であるとの意見が出された。また上記に基づいた、日本神経学会学術大会の演題募集時の応募演題の倫理面のチェック画面についての説明もあった。これらに関する倫理・審査委員会の意見も紹介された。

介入研究については、最低ラインを明記して担保しておくことが必要であるが、あまりに厳しすぎるのはよくなく、学会事務局に問い合わせが殺到する可能性があるとの意見も出された。倫理審査等を必要としない研究について、学会が明示するべきだ、という意見もあったが、必要ないということを決めるのは困難であるということになった。審議の結果、まず今回提案されたもので運用し、今後必要に応じて適宜修正していくこととなった。

(15) 一般社団法人日本神経学会育児・介護に関する規程改正について(別冊資料 4)

事務局の池田事務長から、資料に基づき、4月に制定した育児・介護休業規程で定める子の看護休暇および介護休暇について、「有給の休暇」として制定したが、条文がその趣旨を明確にできていないとの指摘を受けたので、該当する条文を改正する旨説明があり、承認された。

(16) 一般社団法人日本神経学会認定更新に関する規程改正について (別冊資料 5)

水澤代表理事から、資料に基づき、日本神経学会認定更新に関する規程改正において、4月に改正した単位を付与するその他の団体として、「東北神経病理研究会」を「日本神経病理学会東北地方会」に名称変更したが、これが誤りであることが判明したため、元の「東北神経病理研究会」に戻すなどの改正を行う旨説明があり、承認された。

- (17) 一般社団法人日本神経学会指導医の認定および認定更新手続きに関する規程(案)について(資料 P110, 107)
 - ① 施設認定委員会委員長の佐々木理事から、資料に基づき、指導医認定の手続については順調で、平成25年度指導医登録者112名が理事会にて承認されたことが報告された。平成25年度に始まる指導医に認定更新を行う必要があるため、その手続きの明確化を目的として「指導医の認定および認定更新手続きに関する規程」を制定するため、その規程案について説明があった。規程案の3章にあるように、認定手続きについては、指導医資格を申請することが可能となった者に対して、学会事務局から予め申請手続きに関する案内を郵送で送り、申請者は様式を学会ホームページからダウンロードし、必要事項を記載したうえで学会事務局に郵送で提出するということになるとのことである。日本神経学会指導医更新申請書、日本神経学会指導医申請書の書式についても説明があり、承認された。
 - ② 併せて、資料に基づき教育施設・準教育施設・教育関連施設などの申請と認定の状況についても説明があり、承認された。

(18) 専門医制度について (別冊資料 6)

水澤代表理事から、専門医制度に関する検討状況と今後の対応方針について報告があり、その後意見交換がなされた。まず専門医制度については、これまで理事の間ではメール等で議論を進めてきたが、同様の議論について一般会員にも周知するため、先日会員にあてて専門医制度の改革について周知するメールを送ったことが報告された。今回の専門医制度の主要な問題点は、①研修期間が長すぎること、②脳卒中、認知症学会と神経学会との整合性が悪いこと(これらの学会が場合によっては神経内科と同じ二群におりてくる可能性もある、神経学会はできれば基本領域に降りられるとよい)の2点である。

これまで専門医制評価・認定機構との会議が 2 回ほど開かれている(骨子は別冊資料 P78 参照)。その議論では内科学会側は 2 階建てを前提としており(内科専門医の取得が各 subspecialty 専門医の前提),内科専門医の研修に 5 年かかるということも前提になっている。しかし必要な期間の内科の研修が終わればオーバーラップを認める立場に変わってきており,機構も同様の意見である。専門研修を内科研修と直列ではなく並列に行うことができれば,研修年限を短くすることができると思われ,他の内科関連学会とも協力して交渉していくことにより,殆ど現状の研修年数で専門医が取れるのではないかとも考えられる。しかし内科学会も具体的なオーバーラップの年数は言っていない。また研修の実を保障するため,主病名で症例を登録するように言っている。内科学会と神経学会では狙うところが異なり,内科学会が目指しているのは内科認定医レベルのことではないかもしれない(救急プラスアルファのことも考えているかもしれない)が,神経学会側では現在の内科認定医程度のものでよいと考えている。

また内科学会は、現在の内科関連学会以外の subspecialty を当該内科関連学会の承認を得ずに認めることはないとのことである。7月までに2011年度版のものを修正して研修プログラムを作りたいとのことで、各 subspecialty 学会に研修プログラムを作成してほしいとの要請があった。大学病院などの基幹病院と関連病院を組み合わせた形の組織としてプログラムをつくってほしいとのことである。

これについて総合内科専門医と新しく基本領域として認められる予定の総合診療専門医の位置づけが不明であるという意見が出された。これに対して水澤代表理事からは、総合診療専門医については、具体的には何も決まっていない状況と思われるとの説明があった。厚労省検討委員会の定義によれば"専門医"というのは、「標準的な診療ができる医師」のことで、本来の意味での専門医ではないが、国の決定と言うことで機構も基本領域学会もそれに従って動いている。神経学会としては、この定義も国際的にみて問題があるという立場で先日の内科学会への意見書にも記載してあるが、現在、この定義を見直そうという状況にはなっていないという説明があった

(19) 災害支援ネットワークの設置について(資料 P90)

IT 化推進委員会委員長の阿部理事から、資料に基づき、本学会の災害対応のシステムである災害支援ネットワークシステムの構築と今後の運用予定、模擬訓練の実施等に関して報告があった。IT を用いた神経難病患者の救済をめざしており、当面は ALS や MSA 等の重症神経難病患者を対象とする予定である。また厚生労働省から補助金を受け、災害支援ネットワークシステムを整備し、予め患者を受け入れることができる医療機関として 260 施設からの登録があったことが報告された。このネットワークが実際に機能するか検証するために、7月7日(日)に模擬訓練を行う予定であり、静岡と高知をモデル地区として具体的に訓練を行う予定である。ブロックの理事への電話連絡、理事へのメール配信なども検討しているとのことであった。災害支援ネットワークのシステム画面などの説明もなされた。九州地区の委員については九州ブロックの吉良理事とも相談しつつ、委員の交代があるかもしれない旨報告があった。

(20) 各種委員会報告について

① 編集委員会(資料 P97)

編集委員会委員長の中野理事から、資料に基づき臨床神経学の刊行状況および業務実績等について報告があり、承認された。電子投稿システムを2010年4月15日から導入し、査読システム ScholarOne を導入し投稿・査読が簡便になったこと、臨床神経学の表紙を刷新したこと、2015年からは臨床神経学が完全電子ジャーナル化し、希望者以外には冊子体がなくなること、印刷会社を中西印刷に変更し、印刷費用が半分になり、刊行も順調におこなわれていること、投稿出版状況については、採択率がこの3年間73%と高いこと、52巻6号から電子目次を配信するようになったこと、J-STAGE、学会ホームページのアクセス件数は順調に増加しており、2012年10月では55,000件程度になったことが報告された。順調に投稿数が伸びており、すでに論文も10月号まで揃っているとのことである。

引き続いて新編集委員会委員長となる鈴木理事から今後の編集方針等について、中野委員長の勢いを引き継ぎさらに投稿数をアップし、この雑誌の価値を国内・国外ともに発信していきたい、また PubMed で検索できる抄録もレベルアップしていきたいとのことであった。

② 専門医認定委員会·認定更新小委員会 (資料 P99, 101 別冊資料 8)

専門医認定委員会委員長の中島理事から、資料に基づき、第38回専門医試験の実施状況(第一次試験受験者数211名、第二試験受験者数180名、合格者数166名)と、第39回専門医試験の予定について報告があった。第39回専門医試験は第一次試験を平成25年6月15日(土)、第二次試験を平成25年7月13日(土)に行う予定であり、去年より少し多い223名が受験する予定である。面接委員の先生は欠席のないよう参加してほしいとの要請があった。

認定更新小委員会委員長の山本理事から、資料に基づき2012年度の専門医認定更新の状況について報告があった. 2012年度の更新対象者715名のうち、資格停止期間中の会員は78名であり、3年経過した52名の会員は次回7月の理事会の最終決議により資格喪失となる見込みである。うち2名は単位はクリアしているが更新料未入金であり、ご存じの方があれば声をかけていただき、継続の意思があるかどうか事務局に連絡するようにしてほしいとのことであった.

③ 施設認定委員会

※議題 14 で報告済み.

④ 診療向上委員会(資料 P117)

診療向上委員会委員長の内山理事から、資料に基づき、これまでの審議状況および平成 26 年度資料報酬改定提案書の提出状況について報告があった。6月 18 日開催の内保連のヒアリングをめざして調整中である。平成 26 年度診療報酬改定に関しては、神経学的検査のさらなる増点と中枢神経磁気刺激法による誘発筋電図について優先的に提案して行く予定であるとのことであった。

(5) 教育委員会(資料 P125)

教育委員会委員長の吉良理事から、教育関係事業の実施計画等について報告があった。これまで理事会に報告してきた ことと基本的に同じであるとのことであった。

⑥ ガイドライン統括委員会(資料 P131) 冒頭に報告済みである。

(7) 国際対応委員会·WCN 招致委員会(資料 P135)

国際対応委員会委員長の高橋理事(WCN 招致委員会委員長兼務)から、資料に基づき、WCN の招致活動状況について報告があった。京都市国際コンベンション開催支援助成金(300万円)を獲得したこと、誘致支援助成金(100万円)も申請中で獲得できる見込みであることについて報告があった。国際学会での招致活動用にWCN 招致用小パンフレット、および電子版を作成したので、使用したい方は申し出てほしいとのことであった。学会員への招致活動啓蒙キャンペーンとして、第54回日本神経学術大会での学会向けのWCN2017 啓蒙活動の幕間スライド、ポスターを用意したこと、国際対応委員・学会員による各国WFN 代議員への働きかけをお願いしたいとのことであった。本年のウイーンでのWCN 時(9月22日)に選挙が行われるので、あと3か月半ぜひご協力をお願いしたいとのことである。

⑧ 英文誌編集委員会(資料 P139)

英文誌編集委員会委員長の辻(省)理事から,英文機関誌の発行状況および投稿状況等について報告があった.今年より隔月刊となり,1st and 2nd issue の見本と目次が配られた.3rd issue についても準備が進んでいる.全体の採択率は66.7%とのことである.国別の投稿数では日本が圧倒的に多いが,アジアなど他地域も多くなっていた.Case report はもともと制限していたが,実際には case report の投稿が多く original article が少ない傾向があるため,現状では case report を奨励して投稿数を増やす方向でいきたい.Special issue は editor を invite して頭痛などの特集号を出したいとのことであった.国際化の一環として,学術大会の英語で行われたシンポジウムについての review を載せたり,ガイドラインを英文化して掲載する予定である.PubMed への引用,impact factor を上げることを目指している.若い人の投稿をお願いしたいとのことであった.9月の WCN では board meeting が行われる予定である.

(18) 神経内科フォーラムの設置について

すでに前回の理事会で承認済みの事項であり、社員総会で報告されることになった.

(19) 神経研究振興基金運営委員会報告について 水澤代表理事より社員総会で報告されることとなった。

(20) 一般社団法人医療安全全国共同行動への入会について (別冊資料 9 P105)

水澤代表理事から、資料に基づき、これまで情報提供等で活動に参加していた医療安全全国共同行動が一般社団法人化したことに伴い、入会の勧誘があったことについて報告があった。審議の結果、入会について承認され、会費は1口10万円であるが、他学会の例を調査し決定することとなった。

(21) 第55回学術大会長報告について 社員総会で報告することとなった.

(22) 第56回学術大会長報告について 社員総会で報告することとなった.

(23) その他

① 事務局事務室模様替えについて(資料なし)

事務局の池田事務長から、現在の事務局の事務室が人員増(全部で7名)によって手狭となったため、事務室を現会議室に移し、現事務室を小会議室にする模様替え案について説明があり、承認された。今後事務局の使用は17-18名までの小さな委員会に限られ、理事会は外部の施設を借りて行うことになるとのことである。

② セクション設置について

水澤代表理事より、在り方委員会で議論されたこととして、疾患ごとのセクションを設けて活動していきたい旨、説明があった。まず、第1期として神経内科で common disease をきちんと取り組んでいくという姿勢を社会に認めてもらうことが必要で、またこれらの疾患を積極的にやっていきたい人に神経内科にはいってもらい神経内科医を増やしていくため common disease のうち 4 つの領域(脳卒中、認知症、てんかん、頭痛)についてセクションを作ることが提案され承認さ

れた。4つの領域の担当者には、専門性と業務分担を考慮して、それぞれ、脳卒中:峰松理事、認知症:山田理事、てんかん:宇川理事、頭痛:鈴木理事が指名され承認された。今後 Parkinson 病、失調症(もしくは併せて movement disorder)、運動ニューロン疾患、免疫性疾患などのセクションも順次作って行く予定である。

③ 次回理事会について

平成 25 年 7 月 20 日(土)13:00 から、東京ステーションコンファレンスで行われる予定である。その前に学術大会運営委員会、学術委員会も行われる予定である。

日本神経学会 議事録

平成 25 年度定時社員総会議事録要旨

日 時: 平成25年5月29日(水)13:00~15:00

場 所:東京国際フォーラム ホール B7

出 席:阿部康二,字川義一,内山真一郎,梶 龍兒,亀井 聡,吉良潤一,楠 進,佐々木秀直,鈴木則宏,祖父江元, 高橋良輔,辻 省次,中島健二,中野今治,西澤正豊,服部信孝,水澤英洋,峰松一夫,山田正仁,山本光利

監事: 葛原茂樹 欠席監事: 清水輝夫

陪 席:アスト税理士法人 小飯田浩伸

小村司法書士事務所 中村拓雄

(日本神経学会から)

選挙管理委員会委員長 内野 誠

1 出席状況の確認

水澤議長(大会長)から、出席状況報告があった。

委任状提出者 274 人

本日出席者 105人

出席人数(委任状含む)は、379人で、定足数(代議員定数の2分の1)を満たしている旨、報告があった。

2 水澤議長から、以下の陪席者の紹介と了解が求められ、了承された.

アスト税理士法人 小飯田浩伸

小村司法書士事務所 中村拓雄

3 資料の確認

水澤議長から、配布資料について説明があった.

(配布資料)

1 第54回日本神経学会学術大会開催時理事会・社員総会資料

○議 事

会員状況報告(資料 P 9)

議長の水澤代表理事から、現在の会員状況について報告があった。平成25年3月31日現在会員数は8087名であり、会費未納者などの退会処理をおこなったため773名の減少があったとのことである。引き続いて第53回学術大会以降の逝去者が報告され、黙祷が行われた。

(1) 平成24年度事業報告について(資料 P11)

水澤代表理事から、資料に基づき平成24年度に実施した事業について報告があった。第53回日本神経学会学術大会・地方会を開催したこと、学術大会を学会中心に運営する方針に基づき第56・57回学術大会大会長を決定したこと、地方会を開催したこと、臨床神経学・英文機関誌Neurology and Clinical Neuroscience の発行、診療ガイドラインの作成、啓発活動、研究奨励、施設認定更新、指導医認定、日本神経学会賞および楢林賞などの研究奨励、専門医試験の実施・専門医認定更新、会員を対象とした教育啓蒙活動として卒後教育事業、卒前・初期臨床研修教育事業、教育コンテンツ配信事業、メディカルスタッフ教育事業を行ったこと、診療報酬改定への取り組み、新薬承認事業の促進等に関する要望活動をおこなったこと、国際協力(WCN2017招致活動、東アジア神経学フォーラム関連事業)、会員マイページ、災害支援ネットワーク事業、理事選挙、代議員選出、外国人名誉会員などについて説明があった。

(2) 平成 24 年度決算報告について (資料 P15)

辻(省)財務委員会委員長から、資料に基づき平成24年度決算について収入増、経費節減のおかげで全体として堅調

であるとの説明があった。平成24年度における収支差は1億2千万円余となっているが、これには任意団体日本神経学会の解散に伴う一般社団法人日本神経学会へのこれまでの貸付金も含まれており、実質上の収入は4000万円程度となるとのことであった。その結果、繰越金は全体で2億8千万円程度となり、財務上は災害などで一回学術大会が中止になっても乗り切れるだけの体力ができてきているといえる。しかし今後消費税アップなども予想され、英文機関誌の発行や教育活動の充実などを考えると財務的には楽観できる状況ではなく、今後も収入増の努力が必要と思われる。

収入面の内訳は、会費未納会員の退会処理などがあったため、会費納入率が高く(97%)年会費収入が良好であること、ガイドラインの印税収入が好調なこと、重症神経難病患者災害情報ネットワーク事業費補助金は雑収入に含めて計上されている。認定医更新については前年度に更新した会員が多かったため予算額より収入が少なかったこと、などが報告された。また第53回学術大会の剰余金が1700万円程度であった。

支出面については、臨床神経学刊行事業・ガイドライン作成事業でも経費削減の努力があり、管理費も節減されたため、全体として堅調であるとのことである。他方、WCNの招致活動が本格化するに伴い、国際協力事業の予算において補正があったことも説明された。

(3) 監事監査報告について (資料 P30)

アスト税理士法人小飯田氏から平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日までの決算について、会計報告の正確性の検証作業を行い、重大な問題はなく妥当なものだと判断するとの報告があり、承認された。その後、葛原監事から資料に基づき、平成 24 年度の会計と運営状況に関する監査結果について、会計処理が適正に行われ、業務が法人としても適正に運営されていることを認めた旨、報告があった。

(4) 平成 25 年度事業計画 (案) について (資料 P31)

水澤代表理事から、資料に基づき平成25年度の事業計画案について説明があり、承認された。第54回日本神経学会学術大会を開催すること、第58回学術大会大会長を選出すること、地方会の開催、臨床神経学・英文機関誌の発行、CIDP/MMN・重症筋無力症・ギランバレー症候群/フィッシャー症候群・細菌性髄膜炎・筋ジストロフィー・頭痛・ALSの7疾患についてガイドラインの作成を行うこと、2009・2010・2011年に発行した5つのガイドラインについて、評価を行うとともに追補版を作成し学会ホームページで公開すること、今回の学術大会後市民公開講座を開催すること、広報活動、神経内科フォーラムの設置、神経内科学講座充実への取り組み、神経学会賞および楢林賞を授与すること、第39回専門医試験、第19回専門医認定更新を行うこと、施設認定更新、指導医更新を行うこと、昨年度にひきつづいて専門医制度の改革について検討をおこなうこと、会員を対象とした教育啓蒙活動として生涯教育講演会、専門医育成教育事業、卒前・初期研修教育事業、教育コンテンツ配信事業、メディカルスタッフ教育事業、教育事業に貢献のあった先生にExcellent teacher 表彰を実施すること、診療向上のための活動として診療報酬改定への取り組みを行うこと、新薬承認事業の促進等に関する要望活動を行うこと、WCN2017の誘致、災害支援ネットワーク事業、一般法人としての運営では理事選挙、総会選出代議員の選任を行うことが報告された。なおWCN 招致については9月22日にウイーンで投票が行われるので、この3か月半が山場になるとのことで全社員の協力について依頼がなされた。

(5) 平成 25 年度収支予算(案) について(資料 P35)

財務委員会委員長の辻(省)理事から、資料に基づき平成25年度収支予算案について説明があり、承認された、支出は昨年度より圧縮することを目指したいとの説明があった。収入面では、年会費は7750人分の支払いを見込んでおり、指導医更新料については今年初めての指導医更新者が2100名いる予定で収入の増加を見込んでいること、印税収入はガイドラインの新規出版分を見込むとともに、印税率もアップする予定なので増加の見込みである。支出面では、臨床神経学は53巻1号から印刷会社を変更し予算が減額になっているが、英文機関誌は前年度途中からの発行であったので3号分しか出ていないが、今年度は隔月で発行をfullに継続していくため予算が増加となること、広報活動では市民向け広報の手段として動画作成のための予算が増えている、WCN2017開催のための運営費を毎年500万円ずつ積み立てる予定であること、災害支援ネットワークシステムへの参加機関の募集・登録や災害時対応の模擬訓練予算として240万円あまりを計上したことなどが報告された。管理運営費の節減は引き続きめざしていく、学術大会関係では、54回学術大会の剰余金1700万円程度が予備費として計上されている、との説明があった。

(6) 役員等選出について

① 2014 年度選出理事数について(資料 P43)

水澤代表理事から、資料に基づき、現理事の任期が第55回学術大会終了後に満了となるため、今年度に次期理事選挙を行う必要があり、その選出数を社員総会で決定してもらう必要があるので、前回と同じく20名とする提案があり、承

認された。

② 理事選出について (資料 P45)

内野選挙管理委員会委員長から、資料に基づき中野今治理事がこの学術大会終了後、定年により退任することになるので、後任として前回選挙で次点であった吉井文均代議員を理事として選任したい旨提案があった。水澤代表理事から承認を求められ、承認された。

③ 監事選出について (資料 P45)

水澤代表理事から,清水輝夫監事がこの学術大会終了後に1期目の任期(2年)満了となるため,再任したい旨提案され, 承認された

④ 2013年度代議員選挙結果について(資料 P48)

服部選挙管理委員会委員長から、資料に基づき、2013年度代議員選挙の実施状況について報告があった。

⑤ 総会選出代議員の選出について(資料 P54)

水澤代表理事から、資料に基づき社員総会で選出できる代議員について、理事会で推薦することが承認された5人を推薦(基礎系4名、精神神経科1名)し、承認された.

⑥ 第58回学術大会長選出について(資料 P56)

水澤代表理事から,58回学術大会大会長に福島県立医科大学医学部神経内科の宇川義一教授が理事会で選出されたことが報告された.

⑦ 各種委員会委員長について (資料 P57)

水澤代表理事から、資料に基づき 5 月 29 日の理事会で承認された各種委員会委員長、新設した委員会等について報告された.

(イ) 委員長交代

- ・編集委員会(鈴木則宏委員長新任および委員交代)
- · 倫理 · 審查委員会(山田委員長新任)
- ・ガイドライン統括委員会(祖父江元委員長新任および梶作成委員長追加)
- ・ガイドライン評価委員会 (辻貞俊委員長新任)
- (口) 新設委員会
 - ·第55回学術大会年次学術委員会(吉良委員長)
 - · 専門医制度検討委員会(祖父江委員長)
 - ・単純ヘルペスウイルス診療ガイドライン作成委員会 (亀井委員長)
 - ・ジストニア診療ガイドライン作成委員会 (梶委員長)

(7) 名誉会員推薦について (資料 P59)

水澤代表理事から、資料に基づき名誉会員推薦基準を説明し、基準に該当する糸山泰人、中野今治、福永秀敏各氏を名 營会員に推薦したい旨提案があり、承認された.

(8) 日本神経学会賞および楢林賞受賞者について(資料 P60)

水澤代表理事から、資料に基づき、2013年度日本神経学会賞(現名古屋大学環境医学研究所病態神経科学 山中 宏 二教授「筋萎縮性側索硬化症における細胞群特異的病態の解明」)および楢林賞(福島県立医科大学神経内科 宇川 義 一教授「パーキンソン病の磁気刺激治療法の開発研究」)の受賞者の報告があった。併せて授賞式を今日(29日)17:40からホール C で行う旨説明があった。

(9) Excellent Teacher 表彰について (資料 P61)

吉良教育委員長から、資料に基づき、平成25年度から教育に貢献した会員等を表彰する制度を設け、今年は基準(専門医のセミナーの講師5回以上)に該当する19名を表彰することになった旨報告があった。併せて、表彰式を5月30日(2日目)13:30からホールCで行う旨紹介があった。

(10) 一般社団法人日本神経学会利益相反(COI) 運用に関する指針の改正について(資料 P63)

山田理事から、平成25年1月および4月の理事会での審議結果を踏まえた利益相反(COI)運用に関する指針の改正案について説明があった。平成23年5月の社員総会で日本神経学会利益相反(COI)に関する運用指針が承認され、2年間を試行期間としてきたが、今回本格運用に向けて運用指針を改正する必要があるとのことである。改正案では「運用指針」の名称を「規程」に変更した。講演会市民公開講座等での自己申告を決めた第3条では、学会が主催する学術大会等

については、自己申告書を提出することになり、その提出先・方法について規定した。一方、地方会支部が主催する地方会などについては、事務処理の効率化がまだなされていないことから、当分の間 COI 自己申告書の提出は必要としないことになった。事務手続きがオンライン化されるようになれば、提出することができるようになると思われるとのことであった。その他、役員等により自己申告、英文機関紙投稿者の自己申告、COI 自己申告書の保存年限、不服申し立て、規程の改正、COI 自己申告様式の修正などの条項についても説明があり、承認された。

(11) 専門医制度について (資料 P81)

水澤代表理事から、専門医制度に関する検討状況と今後の対応方針について報告があった。まず先週会員あてにメールで周知した現在進行中の専門医制度の改革について説明があった。今回の専門医制度の主要な問題点は、①研修期間が長すぎる、②脳卒中学会、認知症学会、頭痛学会などが脳神経外科学会にとっては subspecialty であるが、神経学会にとってはいわゆる第3群となり整合性が悪い、の2点である。これまで内科学会と関連学会との協議会が3回開かれている。研修期間について、今内科学会では内科専門医の研修に5年かかる(そのあとの専門研修が3~4年)ことを原則としているが、これまでの話し合いでは、subspecialty の研修を内科専門医の研修と並列にオーバーラップして行うことにより研修年限を短くする方向が示されている。これには各専門医の研修プログラムが非常に重要になるとの説明があった。

これに対して会場からは、総合内科専門医と総合診療専門医はどこに違いがあるのか、という質問がなされた。水澤代表理事からは、後者の具体的な内容はまだはっきりしないが、総合診療専門医をつくり医療の偏在を解消したいというのが厚生労働省の方針であるとのことであった。神経内科は内科の subspecialty でなく基本領域になるという発想はないのか、という質問もあった。これについては本年1月に提出した内科学会への意見書にはその内容が書いてあること、しかし、たとえ基本領域になるにしても内科全般の基本的な研修は必要であると認識している旨の説明があった。厚生労働省、専門医制評価・認定機構、内科学会などの意見も聞き、こちらの考えも伝えていきたいので、学術大会最終日の緊急神経内科フォーラムにはぜひ出席してほしい旨説明があった。

(12) 災害支援ネットワークの設置について (資料 P90)

IT 化推進委員会委員長の阿部理事から、資料に基づき、本学会の災害対応のシステムである災害支援ネットワークシステムの構築と今後の運用予定、模擬訓練の実施等に関して報告があった。IT を用いた神経難病患者の救援をめざしており、当面は ALS や MSA 等の重症神経難病患者を対象とする予定である。

また厚生労働省から補助金を受け、災害支援ネットワークシステムを整備し、予め患者を受け入れることができる医療機関として 260 施設からの登録があったことが報告された。システム画面などの説明もなされた。災害支援ネットワークの指揮発動要件(どのようなときにこのシステムを動かすか)についての説明もあり、災害の規模に応じて発動する予定であるが、南海トラフなど地震の発生も予想されているため 2、3 年から数年に一度発動する見込みになりそうである。今後ネットワークが機能するかの確認だけではなく、7月7日(日)により踏み込んだ、実際に患者さんも参加するような訓練を行っていく予定である。

これに対して会場からは、気切・胃瘻はやる施設、やらない施設が地域ごとに大分違うが、災害などで患者の本来住んでいる元の地域から他の地域にうつる場合には齟齬が生じかねないのではないか、という質問がなされた。これに対しては、臨機応変に対応していきたいとのことであった。5月31日(金)の午前中に災害ネットワーク特別シンポジウムが行われるので、社員にはぜひご参加いただきたいとのことであった。

(13) 各種委員会報告について

① 編集委員会 (資料 P97)

編集委員会委員長の中野理事から、資料に基づき臨床神経学の刊行状況および任期中の業務実績等について報告があり、承認された。電子投稿システムを2010年4月15日から導入し、査読システム ScholarOne を導入し投稿査読が簡便になったこと、臨床神経学の表紙を刷新したこと、2015年からは臨床神経学が完全電子ジャーナル化し、希望者以外には冊子体がなくなること、印刷会社を中西印刷に変更し印刷費用が半分になり、刊行も順調に行われていること、投稿出版状況については、採択率がこの3年間73%と高いこと、52巻6号から電子目次を配信するようになったこと、J-STAGE・学会ホームページのアクセス件数は順調に増加しており、2012年10月では55,000件程度になったことが報告された。順調に投稿数が伸びており、論文も10月号までそろっているとのことであった。

② 専門医認定委員会(資料 P103)·認定更新小委員会(資料 P104)

専門医認定委員会委員長の中島理事から、資料に基づき、第38回専門医試験の実施状況(第一次試験受験者数211名、第二次試験受験者数180名、合格者数166名)と、第39回専門医試験の予定について報告があった。第39回専門医試験は第一次試験を平成25年6月15日(土)、第二次試験を平成25年7月13日(土)に行う予定であり、昨年より若干

多い 223 名が受験する予定である。面接官をされる先生方に協力が要請されるとともに、委員は公募なので立候補していただきたい。特に内科疾患に伴う神経疾患や睡眠などの機能性疾患分野の先生をお願いしたいとの説明があった。

認定更新小委員会委員長の山本理事から、資料に基づき 2012 年度の専門医認定更新の状況について報告があった. 2012 年度の更新対象者 715 名のうち、資格停止期間中の会員は 78 名であり、うち 3 年経過した 52 名の会員は次回 7 月の理事会の最終決議により資格喪失となる見込みである旨説明があった.

③ 施設認定委員会(資料 P107)

施設認定委員会委員長の佐々木理事から、認定施設、指導医の認定状況等について報告があった。平成25年度指導医登録者112名が理事会にて承認され、名簿を会場で掲示するのでご覧くださいとのことであった。施設認定については、教育施設144件、准教育施設241件、教育関連施設73件が理事会で承認されたことが報告された。複数の病院を一つの単位とする「病院群」として認定を希望する問合せがあり、委員会・理事会で審議を重ねた結果、複数の病院を一つの単位とする「病院群」という枠組みは原則として認めない方針であることが報告された。神経内科医師の雇用形態や診療形態を確認し、それぞれの病院について『認定施設基準』に則って認定を行うとの説明があった。

平成26年度に始まる指導医に認定更新を行う予定であるが、その手続きの明確化を目的として、「指導医の認定および認定更新手続きに関する規程」を制定するため、その規程案について説明があった。規程案の3章にあるように、認定手続きについては、指導医資格を申請することが可能となった者に対して、学会事務局から予め申請手続きに関する案内を郵送で送り、申請者は様式を学会ホームページからダウンロードし、必要事項を記載したうえで学会事務局に郵送で提出するということになるとの説明があった。日本神経学会指導医更新申請書、日本神経学会指導医申請書の書式についても説明があり、承認された。

④ 診療向上委員会(資料 P117)

診療向上委員会委員長の内山理事から、資料に基づき、これまでの審議状況および平成26年度診療報酬改定提案書の提出状況について報告があった。まず平成24年11月11日に行われた第2回診療向上委員会について説明があった。また神経学会会員のアンケートについては回答数が少なく、もっと声を寄せてほしい、神経学的検査のチャートについては、きちんと診察して記載してほしいとの要望があった。5月13日に行われた神経関連委員会では、重点項目の共同提案項目、それぞれの責任学会を決めたことが報告された。また神経学的検査のさらなる増点と、中枢神経磁気刺激法による誘発筋電図について要望を提出していく予定である。との説明があった。

⑤ 教育委員会(資料 P125)

教育委員会委員長の吉良理事から、教育関係事業の実施計画等について報告があった。第54回学術大会時に生涯教育ハンズオンならびにレクチャー・専門医育成教育セミナー・メディカルスタッフ教育セミナーを実施すること、平成25年度は秋季に専門医育成教育セミナーを実施すること。Excellent teacher の選考内規を作成し、これに則って19名を選出し、学術大会時に表彰すること、UMINを活用したJSN Neurological Library での教育コンテンツの配信事業を開始し、本学術大会時の内容を含めて配信事業の充実を目指すことが報告された。また神経内科の大学院教育実態調査、一般病院神経内科教育実態調査を実施したこと、昨年度近畿支部での脳波ハンズオン、Neuromuscular Conference での神経・筋生検ハンズオンを実施したことなどが報告された。

⑥ ガイドライン統括委員会(資料 P131)

辻(貞)統括ガイドライン委員会委員長から、ガイドラインの作成、出版状況および評価の実施状況等について報告があった。現在2011年から着手した7つのガイドラインが作成中となっているが、一昨日3つのガイドラインが発行された。2013年より単純ヘルペスウイルス脳炎診療ガイドライン、ジストニア診療ガイドラインは神経学会の主導で作成中であり、脳卒中診療ガイドラインも脳卒中学会主導で進行中である。本学術大会の6月1日にガイドラインについてのセッション(「女性(妊娠)とてんかん治療」、「重症筋無力症の診療ガイドライン作成にあたって」)があることも報告された。今後ガイドラインの英文化も目指していくとの説明があった。

⑦ 国際対応委員会·WCN2017 招致委員会(資料 P135)

国際対応委員会委員長(WCN 招致委員会委員長兼務)の高橋理事から、資料に基づき、WCN の招致活動状況について報告があった。今年9月22日にウイーンの WCN において 117 か国による投票が行われるとの説明があった。また本学会の5月30日に国際シンポジウム(JXN-WFN/Asia Initiative Joint Symposium: Developing neurology in the World)も行われることが報告された。

⑧ 英文誌編集委員会(資料 P139)

英文誌編集委員会委員長の辻(省)理事から,英文機関誌の発行状況および投稿状況等について報告があった。今年より隔月刊となり,発刊は順調である。第1号,2号の目次が示された.投稿論文はカテゴリー的には original article ε case report が多い.国内の投稿数が圧倒的に多いが,海外でも少しずつ認知されつつある.採択率は全体として 66.7%である.投稿から発刊までに要する平均期間についても説明があった.国際化の一環として,学術大会の英語で行われたシンポジ

ウムについての review を載せたり、ガイドラインを英文誌に掲載する予定である。PubMed への引用、impact factor を上げることを目指している。若い人の投稿をお願いしたいとの説明があった。

(14) 神経内科フォーラムの設置について (資料 P149)

水澤代表理事から、資料に基づき、神経内科の広報を行う組織として設置した神経内科フォーラムについて報告があった。神経内科フォーラムは、神経内科がどのような病気を診療の対象とするか、一般の人々には必ずしも十分に理解されていないことを踏まえ、神経内科の啓発を行うものである。たとえば一般の人は、頭痛があれば脳外科に、手足のしびれがあれば整形外科に受診するという認識があり、このような Common disease を神経内科で診ているということを周知して患者数を増やすような広報・宣伝活動を行う。またこのような活動のための寄付を募るには、神経学会とは別組織が必要であることも説明された。その意味で広報委員長、財務委員長にも役員にはいってもらっている。将来的には神経内科協会のようなものとして、一般の人にもはいってもらうような形に発展させる予定であるとの説明があった。

(15) 神経研究振興基金運営委員会報告について

神経研究振興基金運営委員会委員長の岩田名誉会員が欠席のため、代わって水澤代表理事から、神経研究振興基金の平成 24 年度決算状況について報告があった。本基金は 1981 年に日本で行われた世界神経学会の余剰金でつくった基金であり、国際学会などの国際的な活動に使うこととなっている。繰り越し金が利息も合わせて 3500 万円程度あるが、昨年度は WCN などへの代表理事、国際対応委員長などの出張費が支出されたことが報告された。

(16) 第55回学術大会長報告について

第55回学術大会大会長の吉良理事から、準備状況等について報告があった、学術大会の際に行われるアジア諸国とのテレカンファランスについてもあわせて説明があった。

(17) 第56回学術大会長報告について

第56回学術大会大会長の西澤理事から、大会の日程等について報告があった.

○名誉会員証の授与(壇上にて授与)

水澤代表理事から、今回名誉会員として推薦され承認された3名(糸山泰人先生、中野今治先生、福永秀敏先生)を壇上に招き改めて紹介があった。その後、代表理事から授与があり、各受賞者から謝辞が述べられた。